

西高で学ぶということ

校長 斉木 邦彦

1 沿革と校風

- 本校は1902(明治35)年5月1日、甲府市寿町に創立以来、高等女学校から戦後学制改革による甲府第二高校まで女子校の時代が続きました。1975(昭和50)年の下飯田の現在地への校舎移転と男女共学化を経て、1977(昭和52)年4月、校名を甲府西高校と変更しました。
- 今年創立115周年を迎えましたが、女子校時代の穏やかな雰囲気は共学化以後も引き継がれ、現在の西高には穏やかで大らかな校風を感じます。この校風は、女学校初代校長が新入生に対して行った「品位を高く、そして真面目に」という訓諭とともに、今後も大切にしていきたいと思えます。

2 勉強・部活動の両立と校訓「自己を知り、自己を深める」

- 授業時間(65分×5コマ)の静けさと、それとは対照的な放課後の賑やかさ。これは、目の前の活動に集中できる西高生の姿勢を示していると思えます。授業の予習復習や課題中心の家庭学習は、限られた時間を生活リズムに合わせて有効に活用できるので、勉強と部活動の両立を後押ししています。
- 二高時代からの教育目標の一節を校訓としています。西高生には様々なことに挑戦する中で、自分という存在、更には自分と世界との関係について探究してほしいと思えます。西高での勉強や部活動などの様々な活動を通じて自分に対する確かな信頼を築いてくれることを期待します。

3 単位制と幅広い科目履修

- 単位制は、学びたい科目を選択し、修得単位を積み重ねて卒業が認定される仕組みです。本校では、学習の成果を一つ一つ丹念に積み重ねる過程で自らの個性や適性を探り将来を考えます。様々な分野でがんばる仲間と過ごす学校生活は刺激に満ちたものになると確信します。
- 大学で学ぶ専門分野の基礎は高校での学習にあります。高校では多くの科目を幅広く学ぶ中で自分の進路を考えてほしいと思えます。また、西高では、受験日程の最後まで諦めない集団全体の雰囲気が、進路希望の実現に向けた一人一人の生徒の粘り強い姿勢を根底で支えています。

4 これからの時代への対応…国際バカロレア(IB)の導入と卒業生への期待

- 西高は、国際バカロレア導入に向けて準備を進めているところです。合わせて、高等学校学習指導要領の改訂、大学入学者選抜の改革などの状況を見極めながら、これからの時代に必要なとされる学力を確実に育成するとともに、時代の変化に対応した柔軟な思考力を育てていきます。
- 西高生には、長い歴史の中で受け継がれてきた校風と、専門学科やコースのない広い集団の中でのびのびと育ってほしいと願っています。そして、困難に直面しても穏やかに、大らかに、真面目に人生を歩んでいくことを期待します。西高は西高生と西高卒業生を応援し続けます。

中学3年生へのメッセージ

皆さんがどの高校を受験するにしても、高校入試に向けて準備のためにする勉強は、入学後の高校での日々の勉強にそのままつながります。一生懸命勉強していると、自分の人生を確かに自分で生きているのだという実感が得られるはず。そのとき、受験勉強そのものがまさに人生の本番なのです。皆さんの健闘を心よりお祈り申し上げます。

創立115周年記念「きょうは校長室で昼食会」



甲府第二高校の時代の伝統行事をリニューアルし、「きょうは校長室で昼食会」が実施され、5月15日(月)~22日(月)までの6日間、3年次生がクラスごとに校長先生から招待を受けました。初日は、3年1組の有志15名が参加し、それぞれ持参したお弁当で昼食をとりながら、日頃思っていることなどを一人ずつ校長先生に話しました。秋には2年次生、1年次生も、校長先生からの招待が予定されています。



校長 斉木 邦彦

「がんばれ！西高生」「くじけるな！西高生」

甲府西高校は創立115周年を迎えます。女学校から甲府第二高校まで女子校の時代が73年続きましたが、74年目の昭和50年4月、私は(いきなり私の話ですみません)甲府第二高校に男女共学の最初の学年として入学しました。寿町から移転した直後の、新築間もない、ピカピカに輝いていたこの校舎ですが、そのピカピカとは対照的に、私自身は女子だけの先輩に戸惑い、同級生にもあまり馴染めず、決して明るい学校生活ではありませんでした。将来への不安と進路選択の迷いは当然ありましたが、まずは目の前の勉強。明るくもなく楽しくもない毎日でも、そんなことにお構いなく、とにかく自分はしっかり勉強しよう、そういう感覚でした。この感覚は今になって考えると、自分を信じる、自分の姿勢はこれでいくしかない、という覚悟のようなものだったと思えます。明るい性格で友だちも多く、勉強にも部活動にも積極的、みんながみんなそんな絵に描いたような高校生でなくても、いつの時代の西高生もきっと

何かに一生懸命だったのでしょう。女子校時代も、そして男女共学の時代も、それぞれの時代背景の中で、様々な形の若さ溢れるエネルギーが校舎に満ちていたのだと思います。若さ溢れるエネルギーとは、悩みや不安などはとれあえずカッコに入れておいて、ひたすら今をがんばる、そういう姿勢から生まれるエネルギーなのだと思います。高校時代は実際とても忙しく、常に何かに没頭せざるを得ない状況に追い込まれてしまいます。今をがんばる、という姿勢を知らない間に取られているのです。だからこそ私も含め多くの大人が自分自身の高校時代をなつかしく振り返るのだと思います。皆さんも西高で学ぶ今の自分の姿、悩みや不安を抱えながらもまっすぐに前を見て歩もうとする自分の姿を10年後20年後50年後に振り返り、なつかしく思うと同時に、その健気な姿に励まされる、きっとそうなると思はれています。5月1日は休日となります。この機会に、自分が大人になっていくかけがえのない時期を今、西高で過ごしているのだということ、また、西高の115年の歴史の中に自分があるということ、このことに思いを巡らせてほしいと思えます。(創立記念日を迎えるにあたっての校内放送より)

音楽部 ~第47回定期演奏会~

3月に第47回音楽部定期演奏会が行われました。受験を終えた三年生とともに、一年を締めくくる最高のステージになりました。これからも、楽しく合唱に向き合い、更に素敵なステージを作り上げていきたいと思えます。

3年 小澤 ゆみ (御坂中)



吹奏楽部 ~第40回定期演奏会~

不安と緊張の中で幕を開け、達成感と共に終幕した第40回定期演奏会。演奏会の構成や演出、創作の過程で音楽に没頭した仲間との時間は私たちの誇りです。多くの方からの支援や声援のおかげで、笑顔の花を咲かせられたことに感謝でいっぱいです。

3年 中村 美友 (塩山中)



囲碁部・将棋部 ~共にみやぎ総文祭出場権獲得!!~

囲碁部
山梨県代表として全国高等学校総合文化祭(総文祭)みやぎ大会に出場します。昨年の総文祭では成績が振るわなかったため、少なくとも昨年の結果を上回ることを目標に頑張ります。 2年 望月 雄真(竜王中)

全国高校囲碁選手権大会兼総文祭県代表選手選考会個人戦(高段者リーグ)第3位



将棋部
私たちは4月の県大会で、男子個人・団体が優勝、女子個人で3位という成績を収めることができました。将棋が本当に好きで真剣に取り組んできたから得られた結果だと思います。将棋が好きな人はぜひ西高将棋部へ!! 3年 仲山 一成(長坂中)

山梨県高等学校将棋選手権
男子団体 小林 凜(竜王中)・仲山 一成(長坂中)・田中新太(山梨大付属中)優勝
男子個人 山内敦貴(増穂中)優勝
女子個人 望月璃桜(甲府西中)第3位



information

学校説明会

2017年7月23日(日)13:00~
会場 コラニー文化ホール

入試情報や
進路状況、
西高ライブを
紹介します。



オープンスクール

2017年9月2日(土)9:00~
会場 甲府西高等学校

体験授業や
在校生との懇談会、
部活動見学など
西高のリアルを
体験してください。



Kofu Nishi High School

山梨県立甲府西高等学校
〒400-0064 山梨県甲府市下飯田4丁目1-1
TEL:055-228-5161 FAX:055-228-5164
URL <http://www.nishi.kai.ed.jp/>

発行日/2017.7 編集/広報委員会



*stage /steɪdʒ/

- 1 [立っている場所]が原義) — 図(国) ~s/-iz/ / 回
 - 1 舞台、ステージ(◆世界の象徴)
 - 2 [活動の]舞台、場所[or, of]
 - 3 [発達・発達の]段階、時期
- 用例) 1 N-stage 西高生の時代(時期)
2 N-stage 西高生の活動舞台